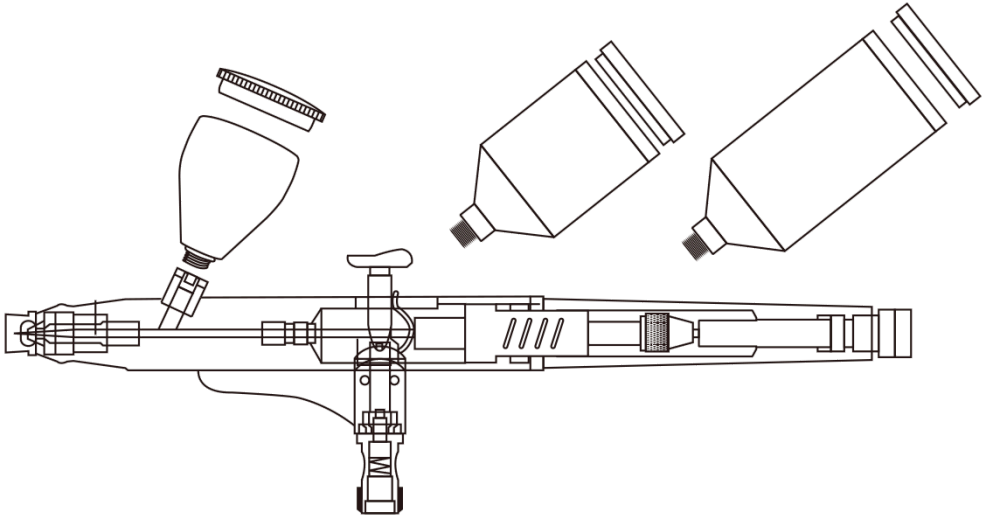




# エアブラシ AW-2シリーズ

## 取扱説明書



この度はエアブラシAW-2シリーズをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品を安全にご使用頂く為に、必ず取扱説明書をお読みになり、使用方法を十分理解してからご使用下さい。こちらの取扱説明書は大切に保管して下さい。



エアブラシは塗装する為の道具です。それ以外の用途には絶対に使用しないで下さい。また塗料を噴霧する際には十分に換気をして、乳幼児やペットのいる環境では絶対に使用しないで下さい。



## 使用上の注意点

- 溶剤系の塗料を使用する場合は火気厳禁です。
- ニードルの先端は非常に鋭く危険な為取り扱いには十分注意して下さい。
- お子様だけのご使用は避け、保護者の方の監視の元お使い下さい。
- 乳幼児やペットの居る環境での使用は絶対に使用しないで下さい。
- エアブラシは精密機械です。落下や強い衝撃にはご注意下さい。
- 塗装の際はマスクを着用し、十分な換気出来る環境でお使い下さい。

誤った使用用途による故障や事故や損害などが起きても、弊社では一切の補償、責任を負いかねます。使用中に異常がある場合、ただちに使用を中止して下さい。

## 製品保証とサポートに関して

当製品は購入後90日間の保証期間があり、初期不良に対しては保証が適用されます。保証に関するお問い合わせは、どうぞお気軽に【エアブラシワークス公式LINE】までご連絡ください。エアブラシサポートチームがスピーディーかつ丁寧に対応いたします。

	<p>お問い合わせは エアブラシワークス公式LINEから</p> 
---	--

### 保証対象外の場合

- お客様自身による破損
- 消耗品の自然な劣化
- 取扱説明書の指示に反した使用方法
- 適切なメンテナンスが行われていない場合

\* 保証は天災など特殊な事情により変更される場合があります。

### エアブラシワークスサポートチーム

エアブラシワークス公式LINEでは、専門知識を持ったエアブラシワークスサポートチームが、エアブラシに関するあらゆる質問に、迅速かつ丁寧に対応して提供しています。製品に関するご不明な点がある場合にはお気軽にご相談ください。

## 故障と思われる前に

故障と思われる前に、**エアブラシのトラブルシューティングをご確認ください**。多くの場合、エアブラシは実際には壊れておらず、正しい調整や使用方法の理解不足が原因であることがあります。そのため、使用前には必ず取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いいただくことをお勧めします。

### エアブラシのトラブルシューティング

#### ご使用前の注意事項

##### ・本体に残ったテスト用の液体について

本製品は出荷前に全ての製品に吹付けテストを実施しております。そのため、テスト用の液体が本体に若干残っている場合がございます。予めご了承ください。

##### ・ニードルの調整による塗料の漏れについて

出荷前には、全製品に対してニードルの位置を最適な状態に調整しています。この「最適な位置」とは、塗料がギリギリ出ない位置を指します。この状態がエアブラシを最も扱い易くします。

しかし、塗料がギリギリ出ない位置が故に気温の変化などのわずかな環境変化により、ニードルの位置がずれることがあります。これにより、新品の状態であっても塗料が漏れてしまうことがあります。

ニードルの調整は、エアブラシの使用において全ユーザーが行うべき重要なメンテナンス作業です。したがって、新品時でもニードル調整によって解決可能な塗料の漏れは、90日間の保証対象外となります。

この点については予めご理解いただけますと幸いです。

## エアブラシAW-2シリーズ(AW-205,AW-208)

AW-2シリーズは、中吹きから太吹きまで広い範囲のペイント作業に適したエアブラシです。付け替え可能な大きな塗料カップと大口径ノズルで広範囲の塗装作業が効果的に行えます。

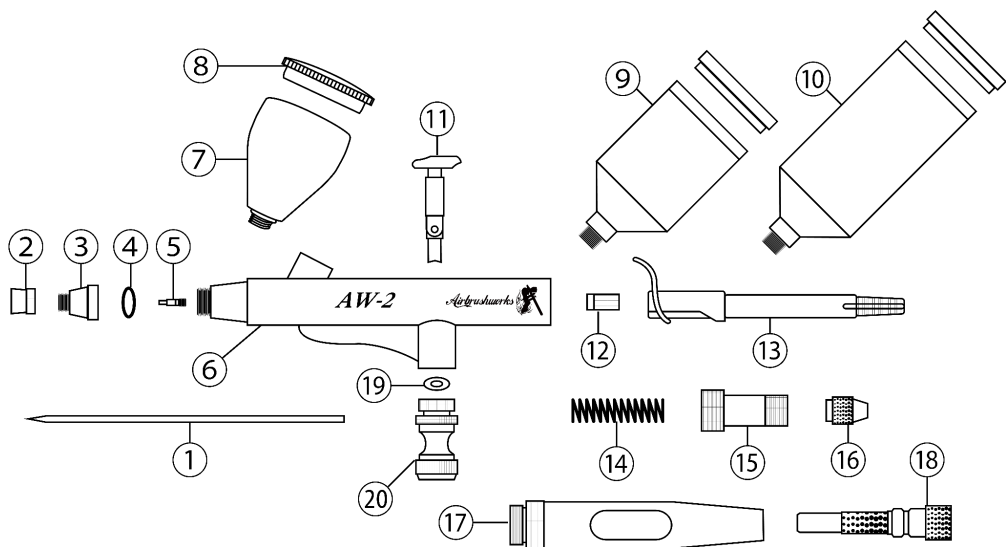


エアブラシ本体、塗料カップ×3、ノズルレンチ、取扱説明書

### 仕様表

動作方式	ダブルアクション
ノズル口径	AW-205 0.5mm AW-208 0.8mm
カップ容量	7cc,20cc,40cc
最低圧力	0.1Mpa
最適圧力	0.16Mpa
最高使用圧力	0.4Mpa
最細ライン幅	AW-205 1.5mm AW-208 2.0mm

# エアブラシAW-2シリーズ分解図



1	ニードル	11	押しボタン
2	ニードルキャップ	12	ニードルパッキン&ネジ
3	ノズルキャップ	13	ニードルガイド
4	ノズルキャップリング	14	ニードルスプリング
5	ノズル(リング付き)	15	スプリングガイド
6	エアブラシ本体	16	ニードルナット
7	金属製塗料カップ 7cc	17	テールキャップ
8	金属製塗料カップ蓋	18	ニードルアジャスター
9	塗料カップ 20cc	19	押しボタンリング
10	塗料カップ 40cc	20	エアーバルブ

# エアブラシの使用前の準備

## 1 コンプレッサーの選択

AW-2シリーズの使用にはコンプレッサーが不可欠です。最良の性能を求めるなら、15L/min以上のコンプレッサーが推奨されています。特に、AW-2の能力をフルに引き出すためには、据え置き型のコンプレッサーが最も適しています。

## 2 圧力の設定

AW-2シリーズが最も良好な性能を発揮するための推奨圧力は0.16Mpaです。ただし、噴霧のみの用途であれば、最低0.1Mpaの圧力でも使用は可能です。

**最大使用圧力は0.4Mpaとなります。それ以上の圧力で長時間使用するとエアバルブのパッキンが破損する場合があります。必ず0.4Mpa以下の圧力で使用して下さい。**

## 3 塗料の選択と調整

AW-2シリーズのニードルパッキンはテフロン製で、溶剤系の塗料が使用可能です。エアブラシは細いノズルのため、高粘度の塗料は不適合で、希釈が推奨されます。

## 4 ニードルキャップの取扱い

エアブラシを使用する際には、ニードルキャップを取り外すことで最適な性能を得られます。キャップが取り付けられたままでは、ノズルキャップ部分に塗料が溜まり、うまく吹き付けることができなくなることがありますのでご注意ください。

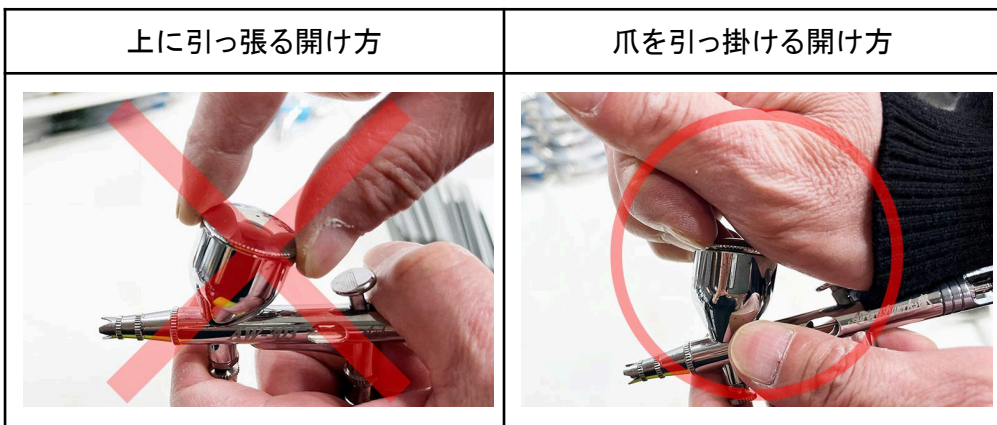
## 5 塗料カップの選択

エアブラシAW-2シリーズには、3種類の塗料カップが含まれています。用途に応じて適切なカップを選ぶことができます。日常的な使用には、金属製の7cc塗料カップをおすすめします。一方、大きな面積の塗装作業には、20ccや40ccの樹脂製塗料カップを使用してください。また、樹脂製のカップは溶剤にも対応しています。

## 5蓋の開け方

塗料カップの蓋は、出荷前に適切な硬さに調整されています。蓋が簡単に脱落すると、塗料がこぼれて作品を汚す恐れがあるため、ある程度の硬さに設定されています。蓋が硬い場合、以下の方法をお試しください。

蓋を上引っ張るのではなく、画像の様に爪を引っ掛けて開けます。



上記の方法を試しても蓋が硬すぎて開かない場合や、蓋が緩くて脱落してしまう場合は、蓋としての機能を果たしていないため、保証の対象となります。エアブラシワークスサポートチームにお問い合わせ下さい。



# エアブラシの操作方法

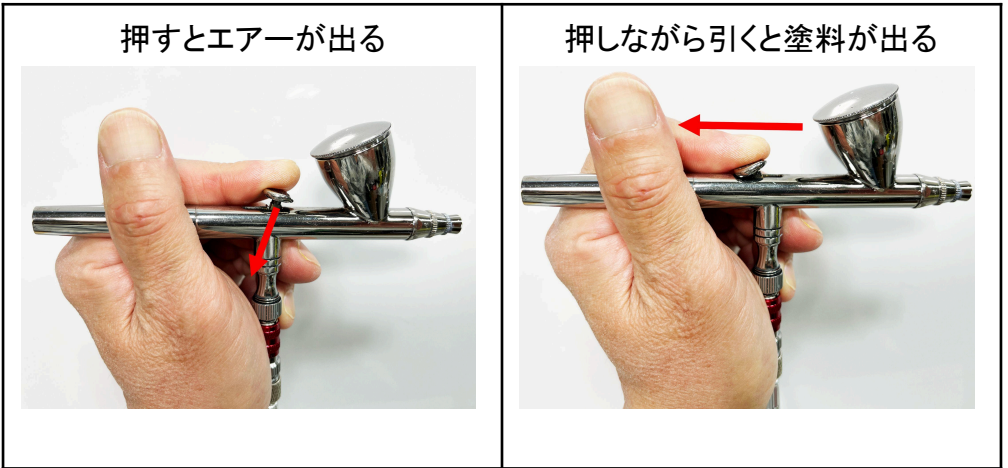
## 動作確認

ご使用開始前に、エアブラシの動作確認を行ってください。希釈剤や水など粘度の低い液体でエアブラシの吹き付けテストを行って下さい。

## 操作方法

AW-2シリーズの操作はダブルアクション方式を採用しています。これは、「エアーを出す操作」「塗料を出す操作」この2つの操作が必要であることを意味します。2つの操作は以下の通りです。

### 押しボタンの操作



## 1,まずエアーだけを出す

ボタンを押すとエアーが出ます。初めての方や慣れない方は、このボタンを常に押したままの状態での操作を始めることをお勧めします。これにより、エアブラシから常にエアーが噴出される状態が維持されます。なお、この段階で塗料も出る場合、故障ではなく、ニードルの調整が必要です。詳しくはP15を参照してください。

## 2,引いて塗料を出す

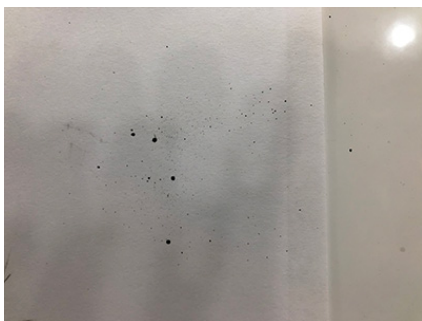
ボタンを押しながら後ろに引くと塗料が噴出します。ボタンを押し続ける中で、後ろに引く動作の強弱で塗料の量を調節できます。初心者の方は、ボタンを押し続けた状態で、塗料の出し入れだけに集中することで、より繊細かつスムーズに操作が行えることができます。

### 弊社のエアブラシ指導からのアドバイス

弊社が20年以上運営してきたエアブラシスクールの経験から、多くの方が「押す」と「引く」の2つの動作を同時に行うのを難しく感じる事が判明しています。このため、エアーを継続的に噴出させ、塗料の出し入れの操作にだけ集中するアプローチをおすすめします。これにより、多くの方がエアブラシをよりスムーズに操作できるようになったというデータがあります。

エアブラシの使用時には、使用を開始すると同時にエアーを出し始め、終了時にエアーを止めることが大切です。この手順を守ることで、終了時に塗料のミストを散らかすミスを防ぐことができます。

### 塗料のミストを散らかすミス



こちらの操作を水又は希釈剤にて行って下さい。  
不具合が発生した場合、[トラブルシューティング](#)を参照して下さい。

## 塗料の混ぜ方

塗料をエアブラシのカップに入れる前に、希釈が必要な塗料は、先に希釈剤をカップに入れてください。その後に塗料を加えます。塗料を先に入れると、濃い部分がノズルの先端に留まり、適切に混合されなくなる可能性があります。一方、希釈が不要な塗料は直接カップに注ぎ入れてください。カップに塗料と希釈剤を入れたら、画像に示すようにノズルの先端を軽く押さえ、エアーを逆流させて混ぜ合わせます。これにより、約2～30秒で均一に混ざります。



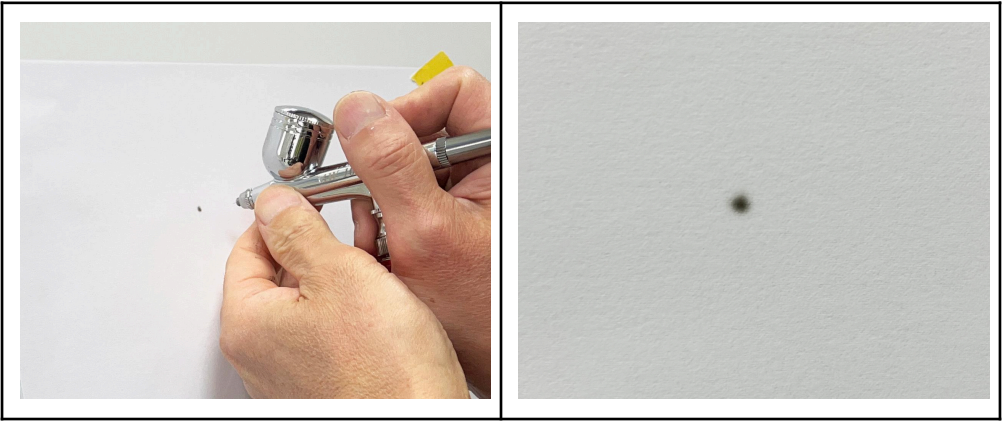
ニードルキャップを外している場合は画像の様に指で摘むと逆流します。上手く逆流しない場合はウエスなどで摘むと良いです。



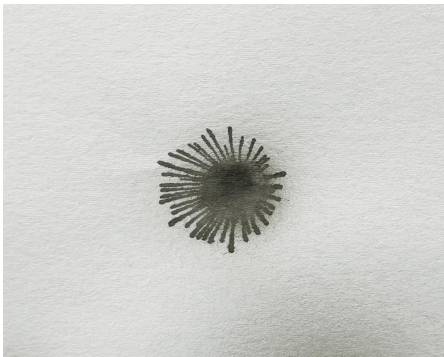
## エアブラシの使用方法

本製品はダブルアクションとなっており、ボタンを押しながら引くことで塗料を噴霧できます。先ほどの説明の通り、エアーは常に押し出し続け、塗料の量を調整するためにボタンを引いたり戻したりします。

エアブラシを対象物に近づけて、押しボタンを僅かに引きながらドット(点)を吹いてみます。



小さなドットが描けます。

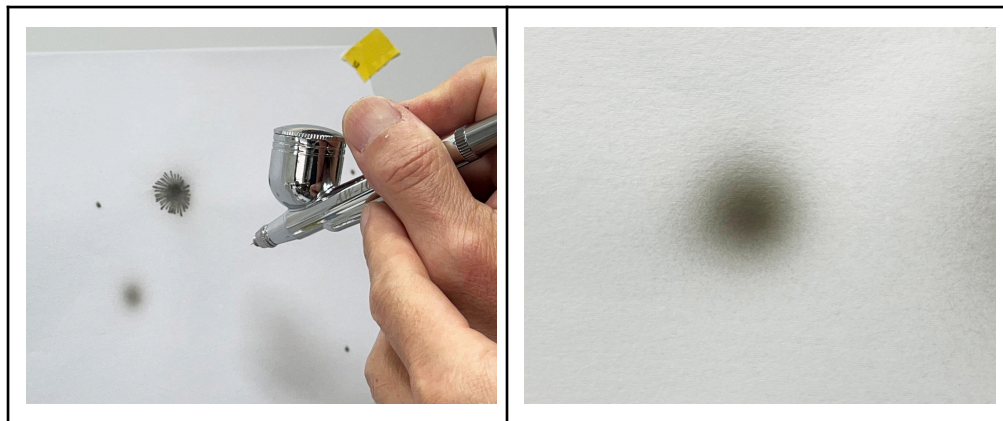


次は同じ距離で押しボタンを沢山引きます。

すると塗料が滑って花火の様な模様が出来ます。

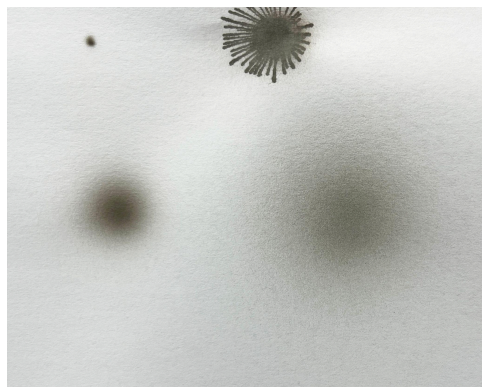
これは画面に付着した塗料が乾く前に次の塗料が付着して、塗料が滑っている状態です。

今度は距離を開けて押しボタンを少しだけ引いてみます。



先程よりも大きなドットが描けます。

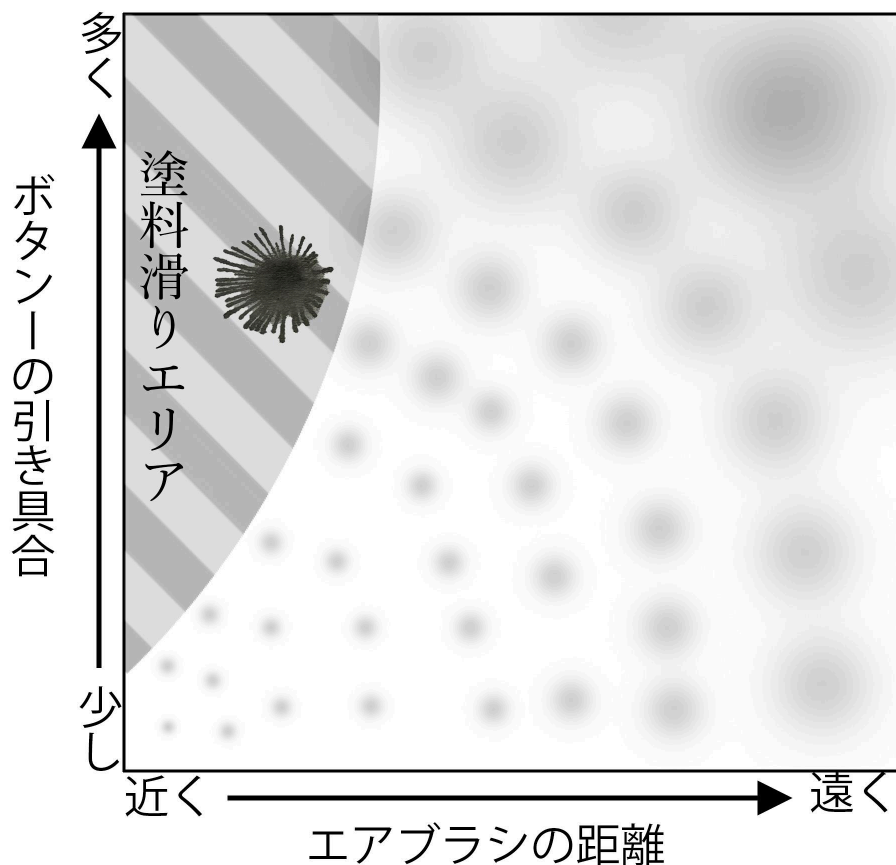
今度は同じ距離で押しボタンを沢山開けます。



すると先程よりも数倍大きなドットが描けます。

エアブラシは距離と押しボタンの引き具合でパターンの大きさが変化します。

## エアブラシの塗装パターンの大きさ



エアブラシの塗装パターンは、「エアブラシと対象物の距離」や「押しボタンの引き具合」によって変わります。押しボタンを多く引くことで、距離を離すよりもパターンが広がるのがポイントです。

しかし、近い位置でボタンを強く引きすぎると塗料が滑ってしまいます。このため、距離とボタンの引き具合のバランスを練習し、適切な範囲での塗装をマスターしてください。注意点として、使用する塗料の粘度も影響を及ぼすため、希釈剤で調整して下さい。

## エアブラシ練習方法のお勧め

弊社が20年以上運営していた「エアブラシアートスクール」の内容をオンラインプラットフォームに再現し、会員登録するだけで、リアルスクール1ヶ月分のカリキュラムを無料で学ぶ事が出来ます。

エアブラシアートだけでなく、プラモデルやメイクなど様々な使用用途の方にもこのカリキュラムでエアブラシの基本操作を応用出来ます。有料エリアもありますが、無料エリアだけでも本格的なプロが教えるエアブラシの基本操作を学べますので、是非この機会にエアブラシの基本操作を学んでみて下さい。

### [エアブラシオンラインスクール入門編](#)



## エアブラシのメンテナンス

エアブラシは精密に作られていますので、使用後の掃除と、定期的に分解するメンテナンスが必要です。

### 使用後の掃除

#### 使用する塗料が水性の場合



水性塗料の場合は水道やバケツなどに水を張って洗浄します



水が透明になるまでブクブクと逆流させます。逆流のみだとノズル内に空気しか入って来ませんので、吹き付けと逆流を交互に繰り返すのがポイントです。



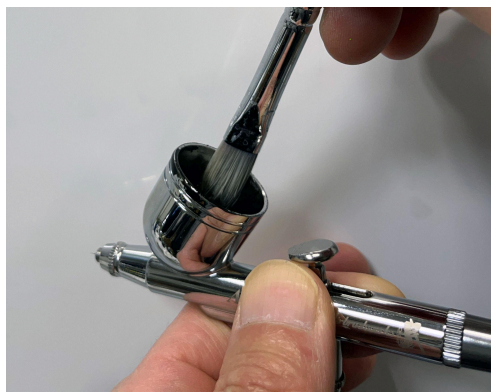
洗浄液と硬めの筆を使い、固まってしまった塗料を溶かし洗浄します。筆は豚毛の平筆が腰があって良いです。



## 使用する塗料が溶剤系の場合



シンナーなどの洗浄液をカップに入れ、吹き付けと逆流を交互に繰り返して、洗浄液が透明になるまで繰り返します。



ウエスや固めの筆などで周りに付着した塗料を洗浄します。



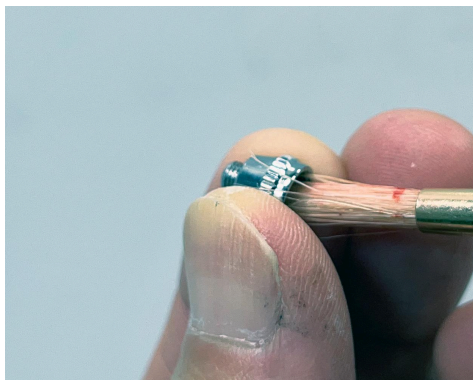
最後にシンナーなどの洗浄液を入れ逆流した時に透明になっていればOKです。

## ノズル周りの清掃

水性塗料、溶剤系塗料のどちらの塗料でも使用後は毎回ノズル周りの清掃をします。



ノズルキャップを外して確認します。画像の様に塗料が付着していたら掃除が必要です。



筆やウエスなどで洗浄します。

この部分はノズルキャップ内でエアの通り道になり、少しでも汚れているとエアブラシの調子を悪くしてしまいます。エアブラシの調子が悪くなったら、まずはこの部分の掃除をすると解決する事が多いです。

## 定期的なメンテナンス

定期的なメンテナンスはエアブラシを全て分解するオーバーホールを行います。エアブラシは構造上長く使用しているとニードルパッキンが緩んでテールエリアに塗料が漏れて来ます。塗料がテールエリアに漏れ出すと初期段階としてエアーが止まらない現象が現れます。そのまま使用していると、2次的なトラブルを次々と発生させますので、エアーが止まらない現象が起きた時点で全て分解してオーバーホールをお勧めします。

オーバーホールは弊社から発売している「エアブラシメンテナンAll-in-oneキット」を使用すると便利です。下記のリンクには「エアブラシメンテナンAll-in-oneキット」とエアブラシのオーバーホールの手順が記載されていますので、参考に見て下さい。

### [エアブラシメンテナンAll-in-oneキット](#)



## ニードルの調整方法

ニードルの調整はエアブラシの構造上どうしても必要な工程となります。AW-2シリーズは出荷時ベストな位置で調整してありますが、気温など少しの環境変化でニードルの位置が変わりますので、お客様ご自身で再調整が必要となります。



テールキャップを取り、ニードルナットを緩めます。軽く緩める程度で良いです。



エアを出しながら塗料の止まる所までニードルを奥に押します。あまり奥に押し込み過ぎるとノズルが広がり割れてしまいますので、力を入れずに軽く奥に押します。

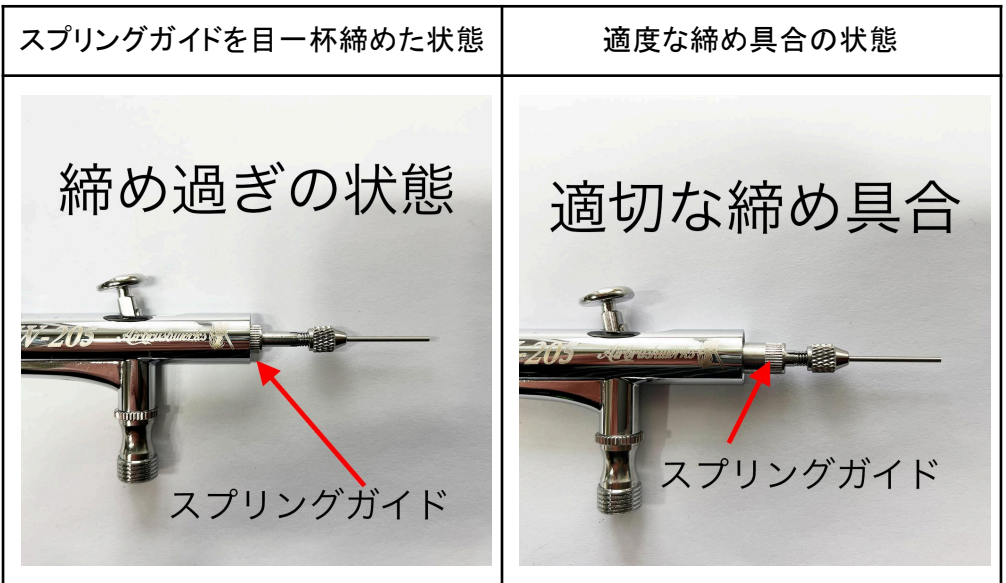
塗料が止まるギリギリの位置がベストな位置です。奥まで押し込み過ぎるとニードルがノズルに引っ掛かった状態になり使いづらくなります。適切な位置にニードルを調整出来ると、押しボタンの反応が向上し、大変使い易くなります。

## スプリングガイドの調整方法

スプリングガイドの使い方について簡単に説明します。スプリングガイドは、エアブラシのボタンを押す感触の調整に役立ちます。この部品をきつく締めるとボタンが硬くなり、逆に緩めると柔らかくなります。自分の好みに合わせて調整してください。しかし、あまりにも強く締めたり、逆に緩め過ぎたりすると、使いにくくなる場合があります。

特に、スプリングガイドを強く締め過ぎると、ボタンを十分に引けなくなり、結果として塗料がうまく出なくなることがあります。もし突然塗料の出が悪くなら、スプリングガイドを少し緩めてみてください。

一方で、スプリングガイドを緩め過ぎると、ニードルが正しく戻らなくなり、塗料が止まらない問題が起こることがあります。このため、適切な締め具合で使用することが重要です。



## ニードルアジャスターの使い方

ニードルアジャスターは塗料の吐出量を一定に保つ機能です。通常は押しボタンを全開に引いた状態に合わせます。



ニードルアジャスターを絞ると、一定の吐出量で塗料を噴霧する事が出来ます。初心者の方が細いラインを描く時などに有効です。

ただし、エアブラシは押しボタンの引き具合で自由に吐出量をリアルタイムに調整出来る事が長所の1つなので、ニードルアジャスターを絞り吐出量を決めてしまうと、エアブラシの長所を消してしまう事にもなります。

エアブラシのプロとして操作する私からのアドバイスは、エアブラシの操作に慣れて来たらニードルアジャスターは全開の位置で固定して、自由に押しボタンを操作するのが良いと思います。

## ニードルとノズルの交換について

ニードルとノズルは消耗部品なので、消耗したら交換が必要になります。

### ニードルを曲げてしまった場合

ニードルを曲がった場合ピンセットなどでも補修が可能ですが、一時的な処置となります。少しでも曲がっていると細い線が出ませんので、交換が必要です。



ニードルの先端は非常に鋭利に作られています。少し当たるだけでも曲がってしまいます。本体に挿入する時も慎重に挿入して下さい。また非常に鋭利な為十分注意して扱って下さい。

## ノズルの交換

AWシリーズのノズルは銅製で、一般的な真鍮製のノズルに比べて数倍の強度があります。しかし、ノズルは消耗品であり、エアブラシを落としてノズルが変形したり、消耗して先端が割れた場合には交換が必要です。

### 交換時期の目安

- エアブラシが落下してノズルが変形した場合
- ノズルの先端が割れたり、消耗した場合

エアブラシの調子が悪くなった場合、ノズルの交換で改善されることが多いため、予備のノズルを数個ストックしておくことをお勧めします。

### ノズルの交換方法



取り外しはレンチを使用し、左側に回して下さい。右側に回した場合簡単に折れてしまうのでご注意ください。



ノズルを指で締め、手で止まったところから、レンチで数ミクロン(ごくわずか)回す程度にしましょう。

締め過ぎると簡単に折れてしまうので、慎重に締めて下さい。



ノズルが折れてしまった場合

ノズルが折れてしまった場合、解説ページを用意してあります下記のページをご参照下さい。

[折れたノズルの取り出し方](#)

AWシリーズのノズルにはOリングが付いていますので、ノズルシール剤は必要ありません。

ノズルシール剤の使用方法

ノズルの脱着を頻繁に行うと、ノズルOリングが破損することがあります。ノズルOリングは単品での販売ができないため、ノズルを交換するか、ノズルシール剤を塗布します。

ノズルシール剤は弊社で販売している「エアブラシメンテナンスAll -in-one キット」に含まれております。下記のサイトで入手可能です。

[エアブラシメンテナンスAll -in-oneキット](#)

ノズルシール剤の正しい塗り方については、下記の解説ページをご参照ください。

[ノズルシール剤の塗り方](#)

## ノズルのセンター調整

ノズルの交換を行う際、ノズルとノズルキャップの位置がズれることがあります。このため、センター位置の調整が必要となります。



プライヤーやその他の道具を使って調整は可能ですが、「エアブラシメンテナンスキット」に含まれる「ノズルセンターツール」を使うと作業が簡単になります。

具体的な使用方法については、ノズルセンター出しの解説ページを用意してあります。下記をご参照下さい。

[ノズルのセンター出し](#)

# トラブルシューティング

エアブラシの操作中に何らかの問題を感じた場合は、以下のトラブルシューティングの指針をご参照ください。これらは弊社が20年以上にわたり運営してきたエアブラシスクールでの経験と、そこで受けた膨大な質問に基づいて構築されたものです。このガイドは、エアブラシのほとんどの一般的なトラブルに対する解決策を提供し、迅速に問題を解決するための助けとなることでしょう。

## エアブラシのトラブルシューティング

### トラブルシューティング目次



- 症状1 塗料が出ない
  - 原因1 エアー圧が低い
  - 原因2 塗料が濃い
  - 原因3 ニードル固定ネジが緩んでいる
- 症状2 塗料は出るが調子が悪い
  - 原因1 ニードルの汚れ
  - 原因2 ノズルキャップの内側とノズルが汚れている
  - 原因3 ノズルキャップが緩んでいる
  - 原因4 押しボタンを逆向きに挿入している
  - 原因5 スプリングガイドを奥まで締め過ぎている
  - 原因6 ノズルのセンターがずれている
  - 原因7 ノズル内が汚れている又はゴミが詰まっている
  - 原因8 ノズルのシール不良
    - ノズルシール剤の塗り方
    - ノズルのセンター出し
- 症状3 エアーが出ない(空気が出ない)
  - 原因1 ノズルキャップ内の汚れ
- 症状4 エアーが止まらない
  - 原因1 押しボタンOリングの汚れ
  - 原因2 押しボタンのバリ
- 症状5 エアーが僅かに漏れる

- 原因1 エアーバルブ内のOリングが外れている
- 症状6 細い線が出ない
- 原因1 ニードルが曲がっている場合
- 原因2 ノズルのセンターがずれている
- 原因3 ノズルの変形
- 症状7 エアーが逆流する
- 原因1 ノズルキャップの緩み
- 原因2 ノズルの緩み
- 原因3 ノズルOリングの破損
- 症状8 塗料が漏れる
- 原因1 ニードルの調整がずれている
- 原因2 ゴミが詰まっている
- 原因3 ノズルの変形又は割れている
- 症状9 ニードルが動かない
- 原因1 ニードルパッキンに塗料が固まっている
- 原因2 ニードルパッキンを締め過ぎ
- 症状10 線が途切れる
- 原因1 エアー圧が低い又は塗料の粘度が濃い
- 原因2 塗料カップからエアーが逆流している
- 原因3 ノズルの不良
- 症状11 エアブラシから水が出てくる
- 対策1 水取りフィルターを取り付ける
- 対策2 レギュレーターをコンプレッサーから離れた位置  
に取り付ける
- 対策3 エアータンクを取り付ける

# エアブラシワークス

【エアブラシワークス】は、エアブラシアーティストChuutaが創設したエアブラシブランドです。自ら操作する観点から、ユーザーにとって扱い易いエアブラシを追求し、さまざまなエアブラシワークの可能性を広げます。

<a href="#">エアブラシワークス</a>	<a href="#">エアブラシオンラインスクール</a>
<a href="#">AWシリーズストア</a>	<a href="#">エアブラシアフターパーツ</a>

	<p>お問い合わせは エアブラシワークス公式LINEから</p> 
---	--

販売元  
エアブラシワークス  
<https://airbrush.works>  
〒420-0801  
静岡県静岡市葵区東千代田1-7-4 2F  
TEL054-689-2976  
[info@airbrush.works](mailto:info@airbrush.works)

